

昨今の中国経済は、世界的な金融危機や最大の輸出相手国であるアメリカの景気低迷の影響を受けてはいるものの、温家宝首相が2009年3月の全国人民代表大会後の会見で、09年の政府目標である経済成長率8%の達成は可能であると明言したように、実際09年第1四半期の実質GDP成長率の速報値は前年同期比プラス6.1%となり、この不況下でも世界において高い水準を維持しています。

しかしながら、そんな経済発展の著しい中国にあって特別行政区である香港では、金融危機により4大産業(金融・物流・観光・商業支援等サービス)のうち、金融・物流・観光の3分野で大きな打撃を受けています。こうした状況を深刻に捉えた中央政府は、香港経済を支援する目的で様々な措置を打ち出しました。

今回はこれらの動きを踏まえながら、香港の現状についてレポートいたします。

1. 悪化する香港の経済動向

香港は、広東省珠江デルタ地区(香港、広州、深センなどの都市を含む)の経済特区制度を活用して発展を遂げ、同地区の経済成長を牽引する役割を果たしてきました。

しかし、近年は上海・広州・深センといった中国本土の経済都市が急速に力を付けてきたことで、本土へのゲートウェイとしての優位性は低下してきています。また国際金融センターと



しての位置付けも、中央政府が上海の国際金融化政策を打ち出したことで低下し、香港内にも動揺が広がっています。

香港にある製造業の生産拠点が1990年代前半までに中国本土へ移転し、サービス産業が香港GDPの約9割を占めるようになる中、2008年中頃まで安定成長していた香港経済は、同年9月の国際金融危機による世界的な不況の影響で、08年の実質GDP成長率は2.4%増(前年比4.0ポイント減)、09年第1四半期は7.8%減と大きく減速しました。消費者物価上昇率も08年は4.3%と上昇傾向にありましたが、09年第1四半期には1.7%と下降しています。また、失業率も08年には3%台まで回復していましたが、09年第1四半期には5.1%と悪化しています(表1参照)。

表1 香港経済指標

(%)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年 第1四半期
実質GDP成長率	7.1	7.0	6.4	2.4	7.8
消費者物価上昇率	1.0	2.0	2.0	4.3	1.7
失業率	5.6	4.8	4.0	3.6	5.1

出所: Hong Kong Census and Statistics Department

2. 中央政府の香港に対する政策

09年4月、中央政府は常務会議で、香港と広東省の広州市・深セン市・東莞市・珠海市に上海市を加えた5つの都市において、対外貿易での人民元建による貿易決済を開始する方針を決定しました。

現時点で詳細は不明ですが、広東省で300社・上海市で100社が人民元決済を行える指定業者に選定される見込みです。香港において外貨に加え人民元での為替取引が開始されれば、中国本土に拠点を有しなればできなかった人民元建の取引を香港で取り扱うことが可能となります。さらに、中国本土の香港系銀行による人民元債の発行解禁により人民元の調達方法が多様化し、中国本土での業務に不可欠な人民元の資金が集めやすくなります。この政策実施が香港の国際金融センターとしての地位を高めると同時に、人民元の国際化にも寄与するものと期待されています。

また、金融以外の分野においても、香港系加工貿易企業の中国国内への販売支援、深セン市民の香港旅行に関するビザ発給の条件緩和、中国のツアー旅行者が香港を拠点とする船に乗船し香港経由で台湾に旅行することへの認可、大規模インフラ整備プロジェクト(香港 - 珠海 - マカオ大橋、香港 - 深セン空港間鉄道、広州 - 深セン - 香港高速鉄道の早期着工)などの支援策が打ち出されており、香港経済を全面的にバックアップする中央政府の姿勢がうかがえます。

3. 人民元決済が可能になった際の外資企業のメリット

香港と中国本土、特に華南地区の間で人民元決済が可能となった場合、香港にある日系企業などにとって、どのようなメリットが考えられるでしょうか。香港に拠点を置く日系企業の大



銅鑼湾が人で溢れる様子(平日20時頃)



回転すしの店先で順番待ちする様子

半は、中国本土と海外とのハブ的な役割を果たしています。それぞれの通貨が取扱えるメリットを活かし資金調達・決済・外国為替を集中させた財務面での統括管理部門を強化させたり、香港の低税率をうまく活用したりすることが今まで以上に活発になるのではないかと考えられます。

金融危機の影響であらゆる産業が打撃を受け、香港を拠点とした中国や東南アジアへの進出は現段階では魅力を欠いているように思われます。しかしながらハイレベルな金融システムを備え、今後も経済発展を続けるであろう中国との貿易の中継地点としての役割を十分果たせるだけの港湾施設を兼ね備えた香港は、やはり世界が注

目する商業都市のひとつであることに間違いありません。

4. 駐在員から見た香港のカルチャー・習慣等

香港駐在員赴任後3ヵ月の私が実際に見て感じた、香港の印象について述べたいと思います。この不況下、「買物天国・美食天国」といわれる香港とは言ってもあまり活気がないのではと思いつつ、実際に街の中へ繰り出すと、午後8時以降にも街は人で溢れかえっていて、不況の影響を全く感じさせない光景を目にします。

私がよく行くのは銅鑼灣(コースウェイベイ)という街ですが、福岡で言えば天神と中洲が融合したようなところ。ここはデパートや飲食店が数多く連なっており、特に店の前に人が溢れているのがお寿司屋さんです。数多くの日本式飲食店があるなか、ここ数年は、回転寿司に人が流れています。かつては休日に飲茶に行っていたファミリー層も、割高であるにもかかわらず、回転寿司に足が向いているようです。その中でも特に、香港人オーナーの寿司チェーン店が人気で、このオーナーは昨年、今年と築地市場のマグロの初せりでも高級マグロを最高値で競り落とし、日本でも話題になった人物です。「刺身は日本人が世界に誇る食文化なのに、なぜもっと世界に刺身文化を発信しないのか」と感じ、日本に頻りに足を運んで情報を収集されているそうです。

私が香港の食品商社の方にお会いした時に、「これから日本の食品で何が売れそうですか」と尋ねたところ、「何が売れるか、こっちが知りたいくらいだよ」と返されました。これは別に冷たく対応されたわけではなくて、香港にはいろいろな商品が世界各国から集まっており、何がブームになるかわからないということを象徴した発言であるといえます。さらに、この方

が語気を強めて「日本のサプライヤーは日本で売れているから香港でも売れるはずだと言って商談を持ち込んでくるが、もっと香港に関する調査(マーケティング、カルチャー等)を行ってから商談に臨むべきだ。」と話していました。

以上のようなことを目にしたり耳にしたりすると、香港という都市のポテンシャルの高さを実感しますし、まだまだ工夫次第でビジネスチャンスを手にすることは十分に可能であると思うのです。

5. 最後に

この不況下、香港・華南地区の日系企業の方々からお聞きすることは、決まって売上が大きく落ち込んだということです。しかし、今後も経済成長を続けていくであろう中国や東南アジアのマーケットを対象としたビジネスは、当然、世界各国の投資家たちから注目されることでしょう。

世界が注目するマーケットの中心に位置する香港は、レッセフェール(自由放任)政策やタックスヘイブン(租税回避地)といった優遇制度のほか、港湾設備や物流倉庫などの社会インフラも充実しています。したがって中国や東南アジアとビジネスを行う場合、香港を経由するなど香港の優位性を再認識して、事業計画を検討する必要があるのではないのでしょうか。

福岡銀行の海外駐在員事務所(大連・上海・香港)では、お客様が海外でビジネスを行う際に必要となる情報の収集等を行っております。これから海外ビジネスを検討される方も、FFG3行のお取引店を通じてお気軽にご連絡ください。

(香港駐在員事務所 末松 尚樹)

参考：NNA ASIA記事

上海編

リバテープ製薬株式会社 ~ 利巴泰製薬株式会社 ~

今回は上海より、リバテープ製薬株式会社をご紹介します。同社は熊本県鹿本郡植木町に本社を構える医薬品・医療品メーカーで、日本で最初の救急絆創膏を開発したことで有名です。現在では、医療機関向けの商品開発・販売を中心に、個人向け化粧品等の開発・販売も行っています。また、医療分野の品質保証国際標準規格である「ISO13485」の認証や、製品の安全基準を示す「CEマーク」を取得し、海外市場での販売強化に乗り出しています。

同社は、中国を欧米と並ぶ輸出の主力市場と考えており、リバテープブランドの中国定着を目指し、2007年8月に上海事務所(利巴泰製薬株式会社 上海代表処)を開設しました。また、当社の中国語社名である「利巴泰(りばたい)」は、現地での販売拡大を見据え、中国でも商標登録も行っています。

上海事務所を開設した当初、中国市場への第一弾として投入した製品は、絆創膏(リバテープ)ではなく、熊本特産の「馬油」でした。中国では、「馬油」が化粧品として分類され、当局の認可を受ける必要から、中国での厳しい審査を経験しての販売となりました。中国の空気は乾燥が激しく、肌が荒れやすいため、保湿性の高い「馬油」は中国の中高所得者層に徐々に受け入れられた様です。現在では上海の薬局(約100店舗)で購入できるまでに至っています。

また、第二弾の製品として、来年早々にも、同社主力の絆創膏(病院向けの大型絆創膏と新製品の10ミクロンの極薄タイプの絆創膏)を投入する予定です。中国市場の将来性と採算性を念頭に入れた、新たな商品投入を行い、事業展開の拡大を図る予定です。

中国国内での「馬油」や「絆創膏(リバテープ)」の販売活動は、現地法人の資格がないと販売活動が認められていません(事務所での販売活動は不可)。そこで、現実的な販売方法として手を打ったのが、今年初めより開始した日系大手の医療代理店による委託販売です。販路拡大を目的に新たなビジネスモデルとしてスタートし、これからの事業拡大が期待されています。



昨年の上海ジャパンフェアにも出展

手探りの中での中国への輸出事業と販促活動は、日本と違い苦労も多かったとのこと(利巴泰製薬株式会社 上海事務所首席代表の滝口氏談)。日本では、ある程度化粧品として認知されている「馬油」ですが、中国での更なる普及のため、まず「馬油」そのものの機能や安全性を広く認知させる必要があります。

今後、当社の製品は病院・薬局・ドラッグストアの3つの販路を軸にマーケット戦略を進めて行く予定です。九州発の製品を中国で見かけることがまた多くなりそうです。

(上海駐在員事務所 守部 直文)

PROFILE

現地事務所名 / **利巴泰製薬株式会社 上海代表処**

住 所 / 上海市中山南路28号久事大厦4楼B座

T E L / +86 21 6330 9288

F A X / +86 21 6330 9028

日本本社名 / **リバテープ製薬株式会社**

住 所 / 熊本県鹿本郡植木町岩野45番地

T E L / 096 272 0631

F A X / 096 275 1064



リバテープ上海の滝口首席代表と陳女史